

# 基本施策評価シート

基本施策最終評価

B

基本施策通し番号 26

基本施策 戦略的な観光の推進  
構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	観光資源の活用と滞在型観光の推進	B
施策2	イベントの充実と広報の推進	B
施策3	広域連携による周遊観光の推進	A
施策4	エコ・グリーンツーリズムの推進	B
施策5	国際観光の推進	C

## 成果指標

指標	内容	平成32年度	平成29年度末実績	単位	平成29年度の成果の検証
観光入り込み客数	大野市を訪れる観光客の年間総数(暦年)	220	200(暦年)	万人	秋の行楽シーズンに秋雨前線と台風による天候不良が続いたため、前年度比125,300人減(94.1%)であったものの、200万人は維持している。

## 後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>結ステーションを基点としたまちなか観光の充実を図るため、城下町東広場の整備やイベントの実施、滞在型旅行企画に対する助成を行うとともに、郊外では農業体験や自然体験などのエコグリーンツーリズムの推進や春の花や秋の紅葉などの観光情報の提供などに積極的に取り組んできた。</li> <li>「天空の城越前大野城」等の効果で観光入込客数が大幅に増加している。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の観光資源をさらに磨き上げ、活用し、「天空の城」に続く魅力ある観光資源の掘り起しが必要である。</li> <li>日帰りの観光客が圧倒的に多く、宿泊や食事、各種体験などを含んだ滞在型観光の推進、広域観光の推進など、戦略的な観光施策の推進により、越前おのファンを増やし、さらなる交流人口の拡大を図る必要がある。</li> </ul>

## 社会情勢・市民ニーズの変化

・東京オリンピック・パラリンピックを控え、国では2020年の訪日外国人旅行者数4000万人、訪日外国人旅行消費額8兆円の目標を掲げており、今後増大する外国人の誘客による観光消費額の拡大が期待される。大野市においては観光入込客数は増加傾向ではあるものの、宿泊者数は少なく一人当たり観光消費額は低い水準のままである。

・観光関係の事業所等においては、一人当たりの観光消費額の増加が望まれている。

## 現在の「現状」と「課題」

現状	天空の城PRや市街地の整備、また、郊外施設の整備(うらら館、スキーパーク、HOROSSAなど)や季節毎のイベント実施、それに加え中部縦貫自動車道(永平寺大野道路)の開通などにより、観光入込客数は200万人、まちなか観光は100万人を超えるなど、天候には左右されるものの観光入込客数は増加傾向であるが、観光消費額は横ばいの状況である。
課題	大野市においては観光入り込み客数は増加傾向にあるが滞在時間が短く、観光消費額が低いことから、滞在時間を延ばす仕掛け(着地型観光商品の開発、土産品の開発等)への対応が重要となっている。また外国人観光客については宿泊できる施設や受け入れ態勢が不十分であり、宿泊人数が伸びていない。今後、観光消費額を増やす＝観光で稼ぐ仕組みをどのように作っていくかが課題となっている。

## 基本施策の「成果」

成果	観光入り込み客数が200万人、うち、まちなか観光が100万人を超え、観光入込客は増加傾向にあり、更に官民協働で観光消費額を増やす取り組みとして、平成29年度においては、引き続き、滞在時間の延長を図るためクイズラリー形式でまちなかを散策する「タイムトラベルアドベンチャー」を実施したり、宿泊者数の増加を図るため宿泊事業者が専門家に依頼して経営改善計画を策定する事業に対して補助金を交付する「結の宿再生促進事業補助」を行い、受け入れ環境の向上を進めるとともに、「観光プロデュースコンテスト」を開催し、全国の高校生・大学生のグループから本市を題材にした観光に関する企画提案を受け、今後の観光施策に活用していくものとした。
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 改善点

・観光を大野市の産業の柱に成長させるため、観光を牽引する組織の役割とそのあり方(大野版DMO)について検討していく。

・重点道の駅開駅や中部縦貫自動車道の開通などを見越して、市内の体験観光プログラムの開発に力を入れていく。

・観光関連団体の連携強化に取り組むとともに、広域周遊観光の推進を図り、旅行代理店へのセールスプロモーションを拡大する。

・滞在時間を延ばす仕掛けの一つとして、これまで観光との連動性が弱かった市内文化施設との連携において新たな仕掛けに取り組む。

・昨年度に引き続き、宿泊施設の改修に対し補助金を交付し、受け入れ環境とおもてなしの向上を図るとともに、古民家等を改修した宿泊施設など外国人にも好まれる施設整備を支援する。

・今後の観光施策に的確に反映していくため、さまざまな機会を得て観光客のニーズや観光消費額等の把握に努める。